

フラッシュ

Part 1

9.22 言葉を民衆のために 櫛引 齋藤秀一顕彰碑除幕式



昭和初期の混乱期に、世界平和を訴えた旧山添村東荒屋生まれの言語学者・齋藤秀一。今年、生家の同地区内泉流寺に顕彰碑が建立され、除幕式が執り行われました。

齋藤秀一は明治四十一年に生まれ、鶴岡中学校、駒澤大学を卒業し、旧大泉村の小学校教師として教へんをとるほか、地域の住民にローマ字の読み書きを指導。さらに日本文学研究エスベラント語の普及などにも取り組み、多くの論文を発表しました。ところが昭和十三年、治安維持法違反で検挙。服役中に肺結核



を患い、自宅療養中に三十二歳で亡くなりました。

顕彰碑は山門近くに建立され、「言葉を民衆の為に 非戦・世界平和への希求 いのちをかけた殉教者」などの言葉が刻まれています。式典では同寺住職らによる法要の後、寄贈者の松浦安雄氏や関係者が顕彰碑を除幕しました。松浦氏は、「自由を奪われた時代に、言葉は民衆のものとして訴えた。皆の協力で顕彰碑が建立できたことに感謝」と挨拶。この碑が未永く齋藤秀一の遺徳を伝えることでしょう。

9.22 きれいな海は魅力がいっぱい 温海 鼠ヶ関ビーチコーミング&マリンパークねずがせき音楽祭



夏の暑さがまだ残る中、鼠ヶ関で「鼠ヶ関ビーチコーミング&マリンパークねずがせき音楽祭」が行われました。このイベントは海の環境について知ってもらい、環境保全の意識を高めてもらうことを目的とし、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて行われました。

「ビーチコーミング」とは、浜辺で貝殻や角が削れて丸くなったガラスの破片を拾い、観察しながら散策するもので、欧米を中心に広まり、日本でも知られるようになりました。



今回は親子連れなど十二人が参加し、拾い集めた漂着物を使って、フォトフレーム作りに挑戦。色とりどりの貝殻やガラスからイメージを膨らませ、個性を生かした自分だけの作品作りを楽しんだようです。また、講師からこみが海の生き物に与える影響などについて、説明を受けました。

屋外の特設ステージで行われた音楽祭では、市内外からジャズやポップスなど九グループのバンドが出演。日本海をバックに美しい音色を奏で、観客を魅了していました。

声 Voice

市役所への意見や質問、広報を読んでの感想などをお寄せください。
送り先 総務課広報広聴係

Q 原付バイクの登録・廃車手続きについて

東京在住で、鶴岡に住民登録している者です。今度、知人から東京で登録した六〇ccの原付バイクを譲り受け、鶴岡に乗って帰る予定です。



鶴岡ナンバーに変更したいのですが、今のナンバープレートと譲渡証を郵送することで手続きができますか。

A 登録手続きは窓口で行ってください

市役所の窓口で手続きができる一二五cc以下の原動機付自転車（原付バイク・小型特殊自動車等）について、廃車手続きは郵送でも受け付けていますが、登録手続きは本人確認の問題から、郵送では受け付けていません。

よって、今回のお問合せにあるような場合は、東京ナンバーのまま運転し、鶴岡に到着してから

ま ち か ど

10.3~

藤沢周平が描いた庄内に触れる 鶴岡

藤沢周平記念館特別展示 藤沢作品と庄内



小説家・藤沢周平氏が小説やエッセイの中で描く、自らが触れた庄内地方特有の自然や暮らし、歴史や文化を作品とともに紹介する特別展示 藤沢作品と庄内 が、藤沢周平記念館で始まりました。

特別展示は「エッセイにみる庄内」藤沢作品にみる庄内藩の文化「庄内が舞台の藤沢作品」藤沢作品と庄内藩」の四つのテーマで構成されています。一つの作品を深く掘り下げて紹介する企画展示と違い、初めて藤沢作品に接する人にもなじみやすい内容となっています。



展示スペースには藤沢氏の自筆の原稿やノート、地元で所蔵する郷土史料など約四十点が展示。また、サロンでは庄内の方言が登場する作品の朗読をCDで聞くことができます。

特別展示が始まった最初の連休中には、県外からのグループや親子連れでにぎわいました。来館者は初めて公開される展示資料等を見ながら、藤沢氏が自分の故郷へ寄せた思いや、庄内地方の歴史や文化が描かれた藤沢作品の魅力を感じ入っていました。特別展示は来春まで行われます。

9.27

黄金色の稲、上手に刈れたよ 羽黒

広瀬地区公民館「学習田・稲刈り」



秋晴れのこの日、羽黒第三小学校の五年生二十四人が稲刈りを行いました。この学習田での田植えと稲刈りは、異年齢間交流事業として公民館が毎年開催。学校行事の一つとなっており、老人クラブや農協職員など、地区の方たちが児童の指導にあたります。

公民館前で開会式が行われ、児童の六つの班に一人ずつ指導者がつきました。農協職員による鎌の使い方の説明の後、児童らは学校近くの田んぼに移動。二坪ほどの面積に、児童が刈るための稲が残されています。



五月に植えた苗は、鮮やかな黄金色の稲穂になっていました。児童は始めにコンバインで刈る様子を見学し、その後班に分かれて、鎌を用いて手刈りを行いました。だが、初めての稲刈りや、稲を束ねる作業に悪戦苦闘。指導者の手ほどきを受けながら、作業のこつを学びました。児童は刈った稲を腕いっぱい抱え、農作業をおして実りの秋を感じたようです。

この日収穫した米は、指導にあたった方たちを交えて、給食で試食することになっています。

鶴岡市役所にお越しいただき、東京ナンバーの廃車手続きと、鶴岡ナンバーの新規登録手続きを同時にする方法がよいかと思えます。そのとき、窓口にお持ちいただく書類等は、次のとおりです。

廃車手続きに必要なもの：現在のナンバープレート（標識）、廃車申告書兼標識返納書（前の所有者の住所・氏名・生年月日・電話番号が記載され、押印してあるもの。他市町村の様式で結構です）

登録手続きに必要なもの：印鑑（認印。シャチハタ印等は不可）

登録にかかる手数料は無料です。また、鶴岡市のナンバープレートはその場でお渡しします。

なお、東京で廃車手続きをした場合は、区役所等から交付される廃車証明書と印鑑をお持ちの上、本所課税課へお越しください。

軽自動車等の登録内容（住所や名義）に変更が生じた場合には、届出が必要です。

詳しくは、本所課税課 ☎25 111 内線206 にお問い合わせいただくか、市ホームページ「課税課」☎ <http://www.city.tsuruokajlg.jp/010500/page1335.html> をご覧ください。

課税課

ま

ち

か

ど

9.25

スポーツも交通も ルールを守って

朝日

交通安全グラウンドゴルフ大会



グラウンドゴルフをしながら交通ルールを学ぶこの大会に、九十一歳を最高齢に八十四人が参加しました。次のコースへ移動するときに横断歩道を渡ったり、ボールの進入を禁止する標柱があったりと、コースの随所に交通ルールが組み込まれています。参加者は交通ルールを再確認しながら、いつもと違うプレイを楽しんでいました。

9.25

雷を学ぼう

温海

鶴岡こども雷実験教室



雷が多い庄内地方。雷の発生仕組みを学ぶことで、科学に興味を持つてもらおうと、市内の五つの小学校でも雷実験教室が行われました。山戸小学校では五年・六年生が実験に挑戦しながら、雷の性質を学びました。牛乳が水の中で積乱雲のように見える実験では、「こんなふうに雲ができるんだ」と興味深そうにピーカーをのぞいていました。

9.30

楽しみながら 環境を考える

鶴岡

環境フェアつるおか2012



地球温暖化やごみ問題など環境問題に関心を持つてもらおうと、環境フェアが小真木原総合体育館で開催環境をテーマとした様々な展示・体験コーナーは親子連れなどでにぎわいました。「鶴岡市こども環境かるた」を使ったかるた大会では、「よくしぼり水気を切ってごみ減量」など読み上げられると、輪になった子供たちは競って札を取り合いました。

9.30

てくてく歩いて 新発見!

藤島

ウォーキングコース踏査会



ふじしまスポーツクラブでは、健康づくりのため、地区ごとのウォーキングマップ作りを行っています。その候補「ぼっぼの湯お楽しみコース」の踏査会が行われ、二十二人が藤島体育館からぼっぼの湯までの約七キロを歩きました。発明王・斎藤外市の実家跡や「豊栄つつみ」等、歩きならではの発見があり、最後は温泉で汗を流し大満足のようでした。



フ

ラ

ツ

シ

ユ

9.30

一年越しの祝いの舞

宮城櫛引会記念総会

市外



宮城県在住の櫛引地域出身者で構成する「宮城櫛引会」。昨年設立から十年目を迎え記念事業を計画しましたが、東日本大震災発生のため自粛。今回改めて記念総会が開催され、会員や来賓など二十八人が参加しました。会員らによる日本舞踊や、地元から参加した「朝日祥雲御山太鼓」の演奏が催され、会場はお祝いムードに包まれていました。

9.30

ゆどのみちを駆け上がる！

六十里越街道トレイルラン教室

朝日



鶴岡まちづくり塾朝日グループが主催するトレイルラン教室に二十二人が参加。うち十人が松根から仙人沢までの約二二キロ、標高差九〇〇メートルの新設コースを約五時間で駆け上がりました。途中、山ぶどう果汁や栃餅等が振る舞われ、茶屋では山船頭人から六十里越街道についてのガイドを受けるなど、この街道ならではのトレイルランを満喫していました。

10.11

注目の新野菜「マコモタケ」

マコモタケ収穫体験と料理教室

藤島



藤島地域の新しい特産物として注目されているマコモタケの収穫体験と、マコモタケを使ったフレンチ料理教室が、食の都庄内親善大使の太田政宏氏を講師に開催されました。長沼地区に出掛ける収穫体験では、背丈の高い稲のようなマコモタケの根元の茎を刈り取ります。「太く白くなったものが食べ頃です」と聞き、丹念に見極めて収穫していました。

10.13 14

全国から俳句愛好者が集まる

羽黒全国俳句大会 岡司呂丸顕彰俳句大会

羽黒



いでは文化記念館を会場に、伝統ある二つの俳句大会が合同で開催。全国から集まった約二千四百句から特選句「もてなしは呂丸の心新走」（菊田和音氏作）などが選ばれました。記念講演会では米沢女子短期大の梅津保一氏が、俳聖・松尾芭蕉が羽黒出身の俳人・岡司呂丸の早世を悼む書簡を送ったこと等を紹介。全国の俳句愛好者らの交流が行われました。